

11・26 第4回測定所まつりの報告です♪

11月26日（土）京都キャンパスプラザにて、西尾正道さん（北海道がんセンター名誉院長）、森国悦さん（医療問題研究会）のお二人をお迎えして「特集：放射能による健康被害」をテーマに第4回測定所まつりを行いました。

西尾さんよりICRP（国際放射線防護委員会）は、国連とは何の関係もない原子力政策を推進するための機関であること。科学者、医者はおらず、事務員しかない機関で、御用学者などが書いた都合のよい論文をつまみ食いをして発表、まさに原発政策を推進していることを明確にされました。

そして内部被曝のごまかしが行われているが、鼻血の問題でも鼻の粘膜に付着したセシウムの微粒子が作用したからであり被曝が原因であると明確に述べられました。

さらに、政府が決めた放射性物質の廃棄物（汚染土）を8000ベクレル/kg以下なら公共事業に使うことを決められたが、1億総被曝・がん時代をもたらすと、怒りをもって報告されました。

森さんからは、小児甲状腺がんの異常多発と、福島県を含むその近隣6県で周産期（妊娠22週～生後1週間）の死亡率（※1）の顕著な増加があることが報告されました。その原因が放射線による被害であることを、具体的な数字をもって明らかにされました。

原子力村と日本政府の悪辣さを感じ、より一層がんばろうと思えるまつりとなりました。（中澤）

※1 周産期死亡率の解説は4ページ目参照



落合栄一郎先生講演会

10月23日（日）丹波橋の呉竹文化センターにて、カナダ在住の化学者で「生物無機化学」の先駆者である落合栄一郎先生の講演会を開催しました。予約の受付枠が全て埋まり大盛況でした。

講義は原発事故前と事故後のガン発症率の変化や、いかにして放射線は生命に悪影響を及ぼすのかといった難しい問題も分かりやすく、理論的に説明してくださいました。

非常に勉強になり、また教わったことを多くの人達に伝えていかなければと思いました。

落合先生の言葉からは、核兵器や原発によって生命とは相容れない放射性物質を地球上にばらまくことへの激しい憤りを感じました。

天然核種などは取り込んでも修復したり排出する機能はある程度備わっているが、出来る限り放射性物質を取り込まない方がよいと思い、京都・市民放射能測定所として今まで活動してきたことは間違いでは無かったし、今後も続けていかなければならない必要性を感じました。

地球上の99.9999999...%が安定した元素だそうです。

では残りの0.0000000...1%の放射性元素が引き起こす悲劇を私達は知っているはずですが。人類は絶対に不必要に核に手をつけてはならない、関わってはならないと改めて感じました。（くっすん）